

# ドレスデン世界遺産における市民参加について —ヴァルドシュロス橋の建設をめぐる市民運動を対象に—

Civic Participation in the Dresden Elbe Valley World Heritage Site:  
A Study on Citizens Movements for the Waldschlößchen Bridge Project

瞿芳馨  
QU Fangxin

## 1. はじめに

### (1) 研究背景

2004年7月にドレスデン・エルベ渓谷は文化的景観として世界遺産リストに登録された。その後、資産の範囲内に建設されたヴァルドシュロス橋はドレスデン・エルベ渓谷における完全性と景観を破壊するという理由から、2006年7月に危機遺産リストに記載され、2009年6月に世界遺産リストから抹消された。ドレスデン・エルベ渓谷が世界遺産リストから抹消されたというニュースはドイツ国内のみならず、ドイツ国外でも報告され、世界各国に大きな衝撃を与えた。

ドレスデン・エルベ渓谷が世界遺産リストから抹消された経緯の中に、ユネスコと締約国の間、ドイツ国内及びザクセン州、ドレスデン市の間にヴァルドシュロス橋の建設をめぐる様々な意見の対立が生じていた。橋建設に対して異なる立場を持つ市民運動が行われてきた。ドレスデン市における政治的な対立を解決するために、様々な形式の市民参加が現れていた。

ドイツの Ringbeck と世界遺産センター長の Rössler (2011)<sup>1)</sup> は、世界遺産委員会の視点からドレスデン・エルベ渓谷における登録から抹消に至る経緯を分析し、登録手続き問題及び「世界遺産条約」に基づく国際義務や、ドイツ連邦政府における政治的問題について論じた。阿部 (2011) はドレスデン市とザクセン州の政治状況や、交通政策や景観検討のあり方についてドレスデン市における世界遺産の抹消に至る経過を分析した。これらの研究は世界遺産ドレスデン・エルベ渓谷において、世界遺産における登録手続きの問題や国際義務、ドイツ国内の制度や法律の課題に向けて行われていた。これからのドレスデン世界遺産に関する研究では、住民投票や団体訴訟などの市民運動が行われていたことを指摘するのみで、ドレスデン・エルベ渓谷における橋建

設をめぐる市民参加の実態については分析されていない。

### (2) 研究目的

本研究ではドレスデン・エルベ渓谷におけるヴァルドシュロス橋の建設をめぐる市民運動を研究対象として、ドレスデン世界遺産における市民参加の実態を明らかにすることを目的とする。

### (3) 論文構成

第二章ではドレスデン・エルベ渓谷の概要、2004年から2009年に開催された世界遺産委員会会合におけるドレスデン・エルベ渓谷に関する議事録の内容から、ドレスデン・エルベ渓谷が世界遺産リストから抹消された要因であるヴァルドシュロス橋の建設に関する議論を整理した。第三章ではヴァルドシュロス橋の建設をめぐる市民参加を推進運動と反対運動に分けて整理し、ドレスデン・エルベ渓谷に係る市民運動を三つの時期において、その経緯について述べた。第四章は結論として、ドレスデン世界遺産におけるヴァルドシュロス橋の建設をめぐる市民の動きをまとめ、世界遺産の保全における市民参加の実態について論じた。

## 2. ドレスデン世界遺産及び橋建設

### (1) 概要

ドレスデン・エルベ渓谷は、エルベ川上流側にあるピルニッツ宮殿から下流側にあるユーピガウ城までエルベ川沿いに約18kmにわたって広がる地域を文化的景観として、2004年7月に世界遺産リストに登録された。

ドレスデン・エルベ渓谷には低い草地が特徴であり、ピルニッツ宮殿とドレスデンの中心市街地には、16世紀から20世紀にかけて数多くの記念物や公園がある。エルベ川沿いの斜面はブドウ栽培に使用されており、郊外の古い村落は、産業革命の歴史的な構造と要素を保持している。

ヴァルドシュロス橋（図1）はドレスデン市がエルベ川に建設された9番目の橋梁であり、ドレスデンの中心市街地からおよそ3 km に位置している<sup>2)</sup>。ヴァルドシュロス橋はドレスデン市の中心市街地の東側からロシュヴィッツァー橋までの空白地帯の中心に位置し、橋の北側が工業地区、南側が人口密度の高い住宅地である。ヴァルドシュロス橋は鋼鉄およびコンクリートで造られており、4車線および自転車・歩道から構成されている中路式のアーチ橋である。



図1 ヴァルドシュロス橋

## （2）世界遺産委員会の決定

2004年7月にドレスデン・エルベ渓谷は登録基準(ii) (iii) (iv) 及び (v) の適用で世界遺産リストに登録された。しかしこの時、推薦書の翻訳ミスによってヴァルドシュロス橋の建設位置が誤って記載されていた。従って、新橋の建設における景観問題は指摘されなかった。

2006年4月にアーヘン工科大学はヴァルドシュロス橋に関する視覚的影響評価を実施し、新橋が他の既存橋と物理的に異質であり、ドレスデン・エルベ渓谷の文化的景観を損害するという結果が出された<sup>3)</sup>。同年7月に世界遺産委員会は視覚的影響評価の結果を受け、ドレスデン・エルベ渓谷を危機遺産リストに記載した。その後、2007年と2008年の世界遺産委員会会合では、世界遺産委員会は締約国に新橋の建設工事を中止するように促し、他の解決策を探るための議論を行った。

2008年2月にドレスデンでユネスコとイコモスの専門家を加えて行われた強化モニタリング・ミッションは、代替案としてトンネルを建設すれば、ドレスデン・エルベ渓谷の文化的景観へ直接的影響はるかに少ないと評価した。世界遺産委員会は代替案を検討する時間を確保するために、ヴァルドシュロス橋の建設を停止するように要求した。しかし、2005年のドレスデン市の住民投票の結果に基づき、建設

工事が進められることから、2009年6月に世界遺産委員会会合に登録範囲の変更による世界遺産リストへの再申請を承認した上で、ドレスデン・エルベ渓谷は世界遺産リストから抹消された。

## （3）橋建設

ドレスデンは19世紀半ばから、ヴァルドシュロス地区における橋梁の建設が計画されていたが、戦争によって実施できなかった。ドレスデン市議会は橋建設を再び計画し、1992年から1994年にヴァルドシュロス地区に橋もしくはトンネルを建設するかどうかについて議論を行った。1996年5月28日、29日に、ドレスデン市で橋建設に関するワークショップが開催され、1997年にヴァルドシュロス橋の構造設計における国際コンペティション（以下、国際コンペ）が開始された。国際コンペによれば、ヴァルドシュロス橋は他の既存橋のデザインとの相似を意識しつつ、旧市街からエルベ宮殿まで間に新しい景観を見る展望台になると示した<sup>4)</sup>。

2002年にエルベ川沿いのドレスデン市では大きな洪水災害に見舞われた。そのため、災害時に避難通路として新たな交通施設が求められた。これを受け同年に、ドレスデン市議会は、橋建設の計画及び予算を決定した。2004年ドレスデン・エルベ渓谷が世界遺産リストに登録されてから、市民団体による橋建設を差し止めるための訴訟や世界遺産保全の市民運動が頻繁に行われたことにより、ヴァルドシュロス橋について実際の工事実施が2007年11月19日に延期された。

ヴァルドシュロス橋の他には、ドレスデン市のエルベ川には8つの架橋が建設されており、その中にロシュヴィッツァー（青い奇跡橋）、カローラ橋、アルベル橋、アウグストゥス橋とマリエン橋が世界遺産エリア内に含まれていた。これらの既存橋は19世紀半ばに建設され、戦争の爆発による破壊から復元された橋も含まれている。都市発展と戦後復興に伴い、ドレスデン市の交通量を増加しているため、既存橋の老朽化と交通渋滞などの問題を解決するに、ドレスデン市は新たな橋の建設を計画した。

2006年、ドレスデン・エルベ渓谷が危機遺産リストに記載されたのち、イコモスは橋梁の代わりにトンネルの建設を含める代替案について議論するようドイツ当局に要請した。更に、2008年にトンネル代替案がドレスデン世界遺産リストの記載を保持する唯一な方法であると主張して、ドレスデン市にトンネル建設に関する市民運動が活発に行われた。一方、

ドレスデン市はヴァルドシュロス地区に建設工事を計画する際に、既にトンネル案の可能性について調査を行い、いくつかの理由によりトンネルの建設を却下することとなった。最終的に、橋梁の建設を決定し、2013年8月にヴァルドシュロス橋が完成した。

このように、ドレスデン市民の多くがヴァルドシュロス橋の建設に賛成した理由には歴史的な背景があることに加え、交通問題の改善及び、老朽橋の代替のために、災害を受けたことで、新橋の建設も受け入れやすかったと考えられる。

ドレスデン市にとっては、ヴァルドシュロス橋の建設が単なるインフラを求める市民のための新たな計画ではなく、歴史的に残された未完成な願望があり、歴史的な経緯があることを明らかにした。

### 3. ヴァルドシュロス橋建設をめぐる市民参加

#### (1) 橋建設の推進運動

2004年6月に、ドレスデン市議会の選挙によって、左派系の政党連合が多数派となり、橋建設推進派の右派系政党グループはその変化による橋梁建設の危機を察知した。市議会の選挙による橋建設に姿勢の変化に対して、一刻も早く橋の建設を促進させるために、2004年から2005年に行政機関を介入し、市民運動 *Bürgerinitiative Pro Waldschlößchenbrücke* (略称 *BProW*) とヴァルドシュロス橋の建設に関する住民投票が実施された。

#### (i) 橋建設のための市民運動

ヴァルドシュロス橋の建設を促進するため、ドイツ自動車連盟 (ADAC) ザクセン協会の会長とドレスデン地方連合の市議会議員などが主催者として、*BProW* を計画し、実施した。その参加者は市議会議員や元市長など行政関係者や道路輸送協会など、交通関係組合の関係者が主要構成であった (表1)。

2004年8月25日から11月15日の間に、ヴァルドシュロス橋の建設の是非について、約85,000人が投票を求める市民請求運動を行った。そのうち、69,487人の有効署名によって、2005年2月27日に、橋建設の是非を問う住民投票の実施が決定された。

2013年8月ヴァルドシュロス橋の開通に関する橋祭りが開催され、8月24日と25日に、約19万人の参加者がヴァルドシュロス橋を訪れた。*BProW* はヴァルドシュロス橋の祭り冊子「ヴァルドシュロス橋開通儀式」を作成し、橋建設の完了に歓迎していた。

*BProW* はヴァルドシュロス橋及び市民請求運動の情報を市民に提供し、橋建設を推進する活動を開

催し、市の仕事を応援し、橋建設の成功に重要な役割を果たした。

表1 BProW の参加者一覧 (部分)

参加者	職業
Nikolaus Köhler-Totzki (会長)	ADAC ザクセン e. V. 会長
Hans-Joachim Brauns (会長)	地方裁判所の裁判官
Waltraut Drews	ザクセン運輸協会常務理事
Herbert Wagner	元市長
Erich Iltgen	ザクセン州議会元議長
Friederike de Haas	ザクセン州議会元会員
Michael Lohnherr	市議会議員
Andreas Lämmel	ドイツ連邦議会議員
Manfred Kömer	ザクセン州道路建設・交通技術者協会
Thomas Riedel	ザクセン・テューリンゲン道路輸送協同組合理事

#### (ii) 2005年住民投票冊子

ドレスデン市はヴァルドシュロス橋の建設に関する住民投票が始まる前、すべてのドレスデン世帯に橋建設と住民投票に関する住民投票冊子 (以下投票冊子) を配布した。投票冊子には、約20ページがあり、政党や選挙区団体の意見を含め、橋梁建設の賛成者と反対者の意見議論が示されていた<sup>5)</sup>。

賛成側は経済的、社会的な方面から新橋を建設する意見を挙げた。ヴァルドシュロス橋はドレスデン市における交通問題を緩和し、住宅地と工業地区を繋ぐことができる。更に、ヴァルドシュロス橋によって、ドレスデン市全域の環境条件が大幅に改善されるという意見が挙げられている。

反対側は高いコストと維持費に注目し、ヴァルドシュロス橋がドレスデン市にとって必要ではないと指摘した。更に、工事による騒音問題や、新しい交通問題の発生により、市民の生活に負担がかかると述べた。その他にも、エルベ川の景観に影響を与えるという意見があったものの、危機遺産リストに記載される可能性については知らされていなかったため、特別に問題視されなかった。

#### (iii) 2005年住民投票

2005年2月27日に、ヴァルドシュロス橋の建設の是非を問う住民投票が開催された。全398,274

人（約 4,870 名の EU 市民を含む）の投票権を有するドレスデン市民うち、202,293 人（50.79%）が投票に参加し、137,152 人（34.4%）がヴァルドシュロス橋の建設に賛成した。つまり、投票者の 67.9% は「はい」と答え、ヴァルドシュロス橋の建設に賛成した。ドレスデン市は橋の建設決定の成功における比較的高い投票率と 25%定足数を超えたことは驚きであったと述べた。住民投票の結果に基づき、ヴァルドシュロス橋の建設が進行した。

更に、住民投票の結果における地区分布を見ると、三つの地区（Äußere Neustadt, Radeberger Vorstadt, Leipziger Vorstadt）を除き、ドレスデン市区の大半、主に橋建設の推進派の拠点は橋建設の賛成に投票した。賛成投票率が高い地区には橋建設の推進政党の拠点があることが分かった。反対投票率が高いアウター新市街、ラデベルク郊外（Radeberger Vorstadt）とライプツィガ郊外（Leipziger Vorstadt）は反対政党の拠点であり、橋建設による影響を受けやすい地域であることが分かった。

2005 年の住民投票の結果により、地域における政党の拠点と関連があることを考えると、市民の自発的意思決定は行政の介入により影響を受けることが分かった。

## （2）橋建設への反対運動

世界遺産ドレスデン・エルベ渓谷の保全に係る活動について、様々な市民団体が世界遺産の保存、特に世界遺産リストへの記載を保持するために、市民運動やトンネル建設の推進活動を行った。また、グリーン・リーガ GRÜNE LIGA ザクセン協会（以下 GL ザクセン協会）は自然保護のために橋建設への差し止めの訴訟を起し、世界遺産保持のための市民運動を支援した。

### （i）市民請求運動-トンネル建設-

世界遺産リスト記載を維持するため、Prof. Dr. Ralf Weber など 3 人の創始人はヴァルドシュロス橋をトンネルに建設する代替案を求める市民請求運動「世界遺産の保存—エルベトンネルを建設せよ」（Welterbe erhalten – Elbtunnel bauen!）（以下「ドレスデン・トンネル建設」）を起した。

「ドレスデン・トンネル建設」は市民運動「世界遺産の保存」；市民運動「世界遺産ドレスデン・エルベ渓谷」；GL ザクセン協会などのメンバーと協力しながら、トンネル代替案について市民に周知させ、可能な限り迅速に計画を実施することを目的としていた。

数多くの著名人を含め、約 50,000 人以上のドレスデン市民が、「ドレスデン・トンネル建設」の市民請求書に署名した。その内、数多くの芸術家や学者は請求運動に参加していた（表 2）。ドレスデン市議会は過半数で投票に関する市民請求書を承認することを決定したものの、当時の市長 Lutz Vogel はこの決定に対して 2 回控訴した。最終的に、2005 年住民投票の結果が有効であるとされ、2008 年の市民投票の請求は認められなかった。

トンネル代替案における市民請求運動は市長の反対により失敗したが、市議会が承認したことから、市民請求運動を通して、市民の声を伝えるように努力したことが分かった。更に、ドレスデン・エルベ渓谷の保存という共通する目的のために、異なる団体が協力しながら活動を行ったことから市民の間に繋がりが生まれた。つまり、一つの目標を達成するには、市民参加において新たな関係性が生じることが分かった。また、共通の目標を持ついくつか市民団体の協力によって、市民参加の規模も拡大していった。

表 2 2008 年市民請求運動の署名者リスト（部分）

最初署名者	職業
Bernd Aust	音楽家、主催者
Reinhard Decker	歌手
Holk Freytag	ドレスデン国家劇監督
Prof. Ludwig Güttler	音楽家
Prof. Hartmut Haenchen	指揮者
Ernst Hirsch	カメラマン
Annette Jahns	歌手、出演家
Dr. Peter Lenk	Ardenne 設備技術会社元常務取締役
Prof. Dr. Heinrich Magirius	芸術史家、文化財保護者
Prof. Dr. Hans-Joachim Neidhardt	芸術史家

### （ii）市民団体の成立

2005 年から 2009 年にドレスデン市に Jana Knauth や Dr. Heidrun Laudel など が市民運動「世界遺産ドレスデン・エルベ渓谷（Welterbe Dresdner Elbtal）」が行われた。2007 年から市民運動「世界遺産ドレスデン・エルベ渓谷」が様々な市民団体や組織と協力しながら世界遺産の保全について取り組んでいた。

2009 年 10 月 7 日に、市民運動「世界遺産ドレス

デン・エルベ渓谷」の終わり及びドレスデンの世界遺産リストからの抹消と相まって、遺産保全における政治的意志が欠如していることから、市民団体ドレスデン遺産協会（Dresden Erben. e.V）が成立された。2009年と2011年にドレスデン・エルベ渓谷を保護する市議会の決定の一環として、ドレスデン遺産協会は恒久的なプロジェクト（Pilotprojekt）を実施するために、2012年5月にエルベ川の斜面における市民参加の第一段階を開始した。ドレスデン遺産協会はドレスデン世界遺産保全からドレスデン市の都市計画への延長であり、2020年1月現在もドレスデン市における持続可能な発展に携わっている。

この市民団体は、第二期までの市民運動の取り組みを引き継いだ延長として位置づけることが出来る。世界遺産リストの記載に関連する責任の意識を高める単一の目標を持つ市民運動から都市景観のユニークさを形作る都市発展を求める長期的、広義の目標を持つ市民団体を生まれることから、市民参加には継続し、発展していった。

### （iii）橋建設を差し止める団体訴訟

GL ザクセン協会は1992年に成立され、ザクセン州における自然と環境の保護を促進し、人と自然の生活環境を維持・向上させるために、エコロジー、市民イニシアチブ、その他 NGO の分野で活動している。

2004年4月にGL ザクセン協会等3つの自然保護団体が、計画されたヴァルドシュロス橋が希少種キクガシラコウモリの生態系に影響を及ぼすという理由から、計画確定決定を行ったザクセン州政府に対して橋の建設を差し止めるための訴訟を起こした。

自然保護団体の訴訟により、2007年8月9日にザクセン州のドレスデン行政裁判所は、希少種キクガシラコウモリの保護方法を定めるまでヴァルドシュロス橋の建設を止めると決定した。2008年10月にはドレスデン行政裁判所がキクガシラコウモリの保護条件付きで訴訟本案の手続きを棄却するという判決を下した。その決定を受けたドレスデン市が橋の詳細構造の見直しを行い、照明柱の設置とりやめ、部材のスリム化等を行っていた。

その後、2009年から2016年にかけて、GL ザクセン協会はドレスデン行政裁判所の判決に異議を申し立て、ヴァルドシュロス橋の計画確定決定における合法性の有無について上訴した。最終的に、2016年7月に連邦行政裁判所がドレスデンのヴァルドシュロス橋の計画の決定は連邦の生息地及び種保護法に

違反することを判決した。連邦行政裁判所の判事は、計画の決定には違法性（Rechtswidrigkeit）が見られ、ドレスデン地方局が新たな手順を実行し、これまでの正しくない自然保護関連の検査を行わなければならないと強調した。

ヴァルドシュロス橋の建設に関する団体訴訟について、最終的にGL ザクセン協会は連邦行政裁判所の支持を得て、自然保護の担い手として大きな成功であると考えられる。従って、自然問題のみならず、景観保護や文化財保護など様々な分野において、積極的に団体訴訟を活用することが考えられる。

### （iv）GL ザクセン協会における市民運動

ドレスデン・エルベ渓谷における世界遺産リスト記載の保持と景観保全のために、GL ザクセン協会は「世界遺産の保存（Initiative „Welterbe erhalten“）」のワーキンググループを設立し、ドレスデン・エルベ渓谷をめぐる市民運動や、自然保護の団体訴訟、ヴァルドシュロス橋の建設などの情報と文書を提供し、他の民間組織や市民団体と協力しながらドレスデン・エルベ渓谷世界遺産に関する情報と立場を市民に伝えるように努力していた。GL ザクセン協会はドレスデン世界遺産保全の市民団体やトンネル建設に関する市民運動に参加していた（表3）。

2007年から2009年の間に、GL ザクセン協会は様々なドレスデン・エルベ渓谷の保全に関する市民活動を応援し、ヴァルドシュロス橋の建設への反対活動の参加に重要な役割を果たしていた。

表3 GL ザクセン協会における市民運動

2007.3	「ドレスデンの世界遺産タイトル保存のためのアピール（Dresdner Appell zum Erhalt des Welterbestatus）」
2007.6	市民活動「人間の鎖（Menschenkette）」
2007.10	連邦会議前の市民デモ
2008.1	トンネルの建設における市民請求運動への応援
2008.3	大規模市民デモ
2008.10	ドイツ記念物保護財団年次総会活動への参加

### （3）橋建設をめぐる市民運動の三つの時期

ドレスデン世界遺産における市民参加を①危機遺産リストに記載される前の第一期、②危機遺産リストに記載されてから世界遺産リストに抹消される前の第二期と③世界遺産リストから抹消された後の第

三期という三つの時期に分けている（表4）。

表4 橋建設をめぐる3つの時期

		世界遺産	橋建設	市民参加
第一期	2000		起工式	
	2002		計画決定	
	2004	WH登録	資金停止	団体訴訟 (GL) ; BProW; 橋建設市民請求
	2005		建設再開	住民投票 ; 市民運動の成立 (WDE)
第二期	2006	視覚的影響 評価→危機 遺産記載		
	2007		建設中止  建設再開	遺産保全運動 Dresden Appel、 Menschenkette ;
	2008	強化モニタ リング ミッション		市民請求運動 (トンネル建設)
第三期	2009	WH抹消		市民団体の成立 (DE. e. V)
	2012			エルベ渓谷保護プロ ジェクト
	2013		建設完了 利用開通	

(i) 第一期：2000年-2006年以前

第一期では主に橋建設を促進する市民運動と住民投票が行われた。この時の市民運動は市民と行政機関が主催者として行われ、橋建設の完成に重要な役割を果たした。更に、住民投票の結果は政党の拠点との関連があることから、住民投票は行政の影響を受けることを明らかにした。

同時に、市民団体が自然保護の訴訟を起こし、ドレスデン・エルベ渓谷の保全の市民グループも成立されたが、具体的な橋建設への反対活動が行われなかった。

(ii) 第二期：2006年-2009年

第二期では市民は自ら橋建設への反対運動を起こし、特に2007年から2008年の間に、橋建設への反対を声明する市民活動から世界遺産リスト記載の保持のためのトンネル建設を実行する市民運動に発展した。

橋建設に反対する共通の目標を達成するために、

市民に新たな関係性が生じ、多数の市民団体の協力によって、大規模の市民参加が見られた。

(iii) 第三期：2009年以後

第三期に2004年からの団体訴訟は2016年まで続いて、最終的にGLザクセン協会の勝訴となった。自然保護団体の成功から、将来的に市民による建設工事の介入や、自然保護のために団体訴訟が法的手段として重要であることが分かった。

また、世界遺産リストから抹消されたことで、市民参加は橋建設と遺産保全における純粋な対立から離れ、ドレスデン市全体における開発と保全の両立を考えるように発展していった。

4. 結論

本研究ではドレスデン・エルベ渓谷におけるヴァールドシュロス橋をめぐるドイツ国内の動きや世界遺産委員会の議論をまとめ、市民の動きを着目し、市民運動の実態を論じてきた。

本研究では、ドレスデン世界遺産における市民参加は橋の建設推進と自然と景観の保全といった二つの形の市民参加が見られた。そして、橋建設への反対運動について、市民参加は形式及び時期ごとに発展し、継続することが明らかにした。

市民参加は世界遺産及び景観の保全において重要な役割を果たしたが、共通の目的を達成するために、市民と行政がどのような関係を構築していくか、そして市民団体の現状と役割については今後の課題である。

参考資料

- 1) Ringbeck, Birgitta/ Rössler, Mechthild: Between international obligations and local politics: the case of the Dresden Elbe Valley under the 1972 World Heritage Convention, pp:205-212, 2011.
- 2) 七澤 利明：ドイツ・エルベ川における橋の建設と世界遺産タイトルの抹消についての調査~世界遺産の保持、環境保全、住民投票と建設事業に関する一連の動き『国土交通政策研究』(89)、2010.
- 3) RWTH: Visual Impact Study (VIS) of the Verkehrszug Waldschlößchenbrücke on the UNESCO World Heritage Site Dresden Elbe Valley, Aachen: Institute of Urban Design and Regional Planning, Aachen University, 2006.
- 4) City of Dresden: Waldschlößchenbrücke 1997, 2008.
- 5) City of Dresden: Bürgerentscheid Waldschlößchenbrücke, 2005.